

子張 徳を崇くし惑を辨えんことを問う。子曰く、忠信を主とし、義に従るは、徳を崇くするなり。之を愛しては其の生きんことを欲し、之を憎みてはその死なんことを欲するは、是れ惑なりと。

【大体の意味内容】子張が「徳を崇くし、惑いを辨える」ということわざの意味を質問した。

先生はおっしゃった。「自分の心を根底から充実させ、自分の言葉と本心が一致するという

『忠信』を精神の主軸とすること。そうして、神々への祈りを込めた舞を舞うような『正義』

を行えば、『徳』つまり、万物を生長させる自然の力・心の働きが崇高なものとなる。こ

れに反するのは次のような者だ。ある人を愛しては、長く生きることが望み、憎んだとたんに

早く死ねと望むような者。そのような者は、『徳』ではなく、『惑い』の渦に呑みこまれて暴走

暴発し、身を滅ぼしてしまう。この道理を弁え、『惑い』に身を任せてはならないということ

である。」

オリンピック二連覇の羽生結弦選手の演技が、一つのスポーツといった枠組みを超えた神憑りのなオーラを発しているのはよく指摘されています。彼は東日本大震災で辛くも生き延びました。その後は多くの死者たち、また無限に生まれてくる生命たちのための禱りの舞に生きようと覚悟したそうで、そこ

からあの怨念にも似たオーラが出てくるのでしょうか。彼が採用している『清明』という映画音楽は、日

本最高の呪術師・陰陽師「安倍晴明」の呪力を表現したものです。羽生選手自身、清明の狩衣装束をイメージしたコスチュームを身にまとい、万物すべての生命たちのための禱りを込めて舞っている、というわけです。金メダルを決めたフリーの演技は、怪我のブランクによる影響もあって技術的には満点というわけではないのですが、体力が切れた後半にこそ鬼気迫る、怒りのような雄たけびの様な狂

い舞を見せ、見る者を圧倒し、八百萬の生命の泥濘に、私たちを引きずり込みました。畏るべき仁徳を発動した瞬間でした。